

## 資料紹介

## 乱歩旧蔵・新規購入本『浮世花鳥風月』

## 『好色堪忍記』について

丹羽 みさと

昨年、江戸川乱歩指定寄付金の一部を用いて、乱歩旧蔵の古典籍『浮世花鳥風月』『好色堪忍記』（登録番号 53001239～53001242）を購入した。ご支援いただいた全ての方々に、厚く御礼申し上げますとともに、どのようなものを入手したのか、資料の詳細を紹介したい。

『浮世花鳥風月』『好色堪忍記』は共に、『浮世栄花一代男』の改題本であり、乱歩本では四巻中、巻一が『浮世花鳥風月』、巻二から巻四までが『好色堪忍記』となっている。作者は一般に井

原西鶴とされているが、現在でもなお疑義が呈されている（塩村耕『近世前期文学研究——伝記・書誌・出版——』若草書房、平成十六（二〇〇四）年）。書誌情報は以下のようになっている。

いずれも半紙本（約縦二十二センチ、横十五センチ）であり、『浮世花鳥風月』の表紙は無地で鳥の子色、二丁ある目錄上部に挿絵を配したのとなっている。

『好色堪忍記』の表紙は無地で水色と

なっており、巻四の最終丁には、「（欠損）三年癸巳正月吉旦 大坂本町老丁目松寿堂 萬屋彦太郎」と刊記がある。年号部分が破れているが、これと同じ刊記は正徳三（一七一三）年の出版である『浮世花鳥風月』のものとしてされている。『底本西鶴全集』第十四巻に掲げられた暉峻康隆の『浮世栄花一代男』解題では、「内題を『好色堪忍記』と改めたものが改題三版である。この三版は序、目次、刊記などすべて元禄十一年の再版本のままである」と記されており、刊記の一致しない本書についてはなお調査が必要である。

本書には、「乱」や「乱歩蔵」など乱歩の所有物であったことを示す蔵書印は捺されていないが、乱歩自筆の文献入手記録「和本カード」による情報から、乱歩の旧蔵書であることが確認できる。

「和本カード」には、『浮世花鳥風月』『好色堪忍記』が一括し、次のように記されている。

## 【表面】

【書名】 花鳥風月 一

好色堪忍記 二―四

【作者】 偽西鶴

【刊年】 正徳三

【冊】 四

【板元】 阪 万屋彦太郎

【備考】

元禄六年「浮世栄花一代男」の改題花鳥風月ハ刊年？

好色堪忍記ハ正徳三

（レイン君パリにて求めたり）

## 【裏面】

【入手記録】

好色堪忍記2―4 三冊ハ、レイン、パリにて求めたるもの、日本になし。この三冊を吉原伊セ物語と竹斎下と交換せり。

花鳥風月ハ24／2 辰巳や500

37年 8000

右に記されている「レイン君」とは、浮世絵研究家であったリチャード・レイン（一九二六―二〇〇二）である。現在、彼のコレクションはハワイのホルル美術館に所蔵されており、インターネット公開されている書目もあるが、乱歩と交換したという『竹斎』『吉原伊勢物語』は、リストに見当たらない。公開されている書目以外にも、数多くのレイン旧蔵本が同美術館には眠っており、今後の情報公開を待ちたい。『好色堪忍記』は全巻揃いではないが、当時はほとんど知られていない資料であった。それを、わざわざパリから持

ち帰ったレインは、惜しげもなく乱歩に譲った。その事実には、乱歩に対する敬愛の念が垣間見える。

この他にも、乱歩の旧蔵書には、レインから受け取った近世資料がいくつかある。例えば『五ヶ津余情男』巻四（都の花風、元禄十五年刊）や『隅田川兩岸一覽』（葛飾北斎）、『秋の夜長物語』（正徳六年）『男色狐敵討』等が挙げられる。詳細については『江戸川乱歩旧蔵江戸文学作品展図録』（平成十七（二〇〇五）年）を参照頂きたいが、乱歩とレインの古書を介した交友は、一度きりというものではなかったことが、多年にわたる古典籍のやりとりから浮かび上がる。



この『浮世花鳥風月』『好色堪忍記』については、『大衆文化』第十七号に掲載した乱歩作成『家蔵同性愛関係書（其一） 日本之部』にも見られる書名であり、次の様に記されている。

「『浮世栄花一代男』（五） 西鶴の序あり。元禄六年板、貞享年間の「好色四季咄」の改題。後又元禄十一年には「好色堪忍記」正徳三年には「浮世花鳥風月」と改題。純粹の男色はなけれど、巻一第二、三話など女子の若衆買ひにて、参考となる事あり。」

乱歩が右で「女子の若衆買ひ」と記した「巻一第二、第三」とは、「花は桜の男傾城」と「花はやれど三人の子の親」の章を指している。

「花は桜の男傾城」とは、夫に先立たれた身分の高い五十過ぎの隠居の女性を慰める為に、彼女が見てみたいと言った「男傾城町」を下女達が屋敷内に作る話である。お歯黒を付け、口紅をさし、白粉を塗った二十人ばかりの若者は、その衣裳や立ち振る舞いの優美さから、遊女にも引けを取らない美しさで称賛された。

しかし、昼夜の区別なく、隠居や下女達から揚げ詰めされた彼らは、最後には衰弱死してしまう。読後感のよくない話ではあるが、女が心惹かれる「男傾城」の魅力が丁寧に記載されており、乱歩が「参考」となると評したのは、女装した若者の美しさの描写であろう。

また「花はやれど三人の子の親」とは、昼には舞台を勤め、夜には客勤めに出る、三人の子を持った若作りの女形の話である。三十七、八才と見られるその役者は、女たちからとても人気があるが、やはり年を取り過ぎていて、衆道のあり方からは外れていると記されている。それでも彼は客勤めに呼ば

れており、その相手は老僧かと思えば、十六才の嫁入り前の美少女であった。色好みの少女と夫婦約束をするものの、役者が金目当てであることは、彼の寝言によって露頭してしまう。

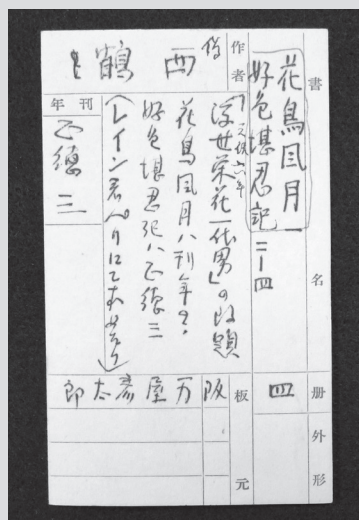
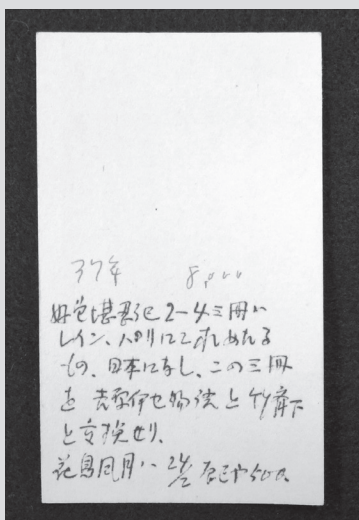
本章には色事の対象となる役者の年齢が、本来ならば、二十五才頃までだと記されている。同性愛関係研究を進めていた乱歩にとって、この年齢問題が「参考」の対象であったように思われる。



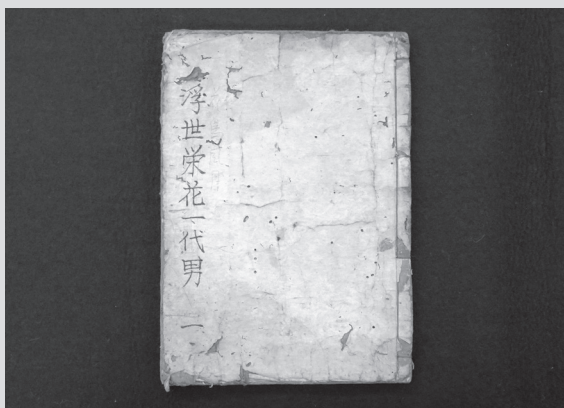
今回新規購入した『浮世花鳥風月』『好色堪忍記』は、以上の様に作者や成立など、確定しかねる要素がなお残る作品であるが、レインから乱歩へ渡ったというその来歴は明らかである。また乱歩がこの資料の何に

興味を持っていたのかについても、文章が記されており、乱歩と近世文学を研究するに当たって、多くのヒントを有する貴重な資料であるといえよう。

丹羽 みさと



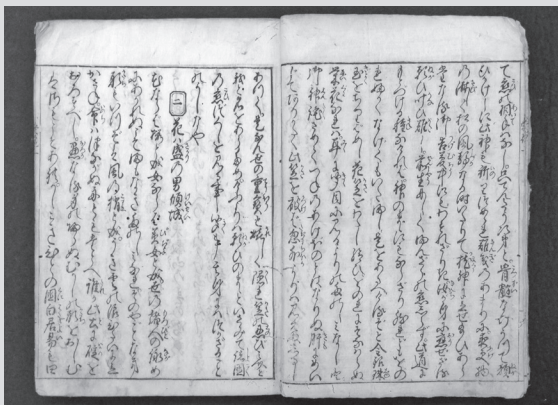
「和本カード」(立教大学図書館蔵)



『浮世花鳥風月』表紙 (立教大学図書館蔵)



『浮世花鳥風月』巻一 目次



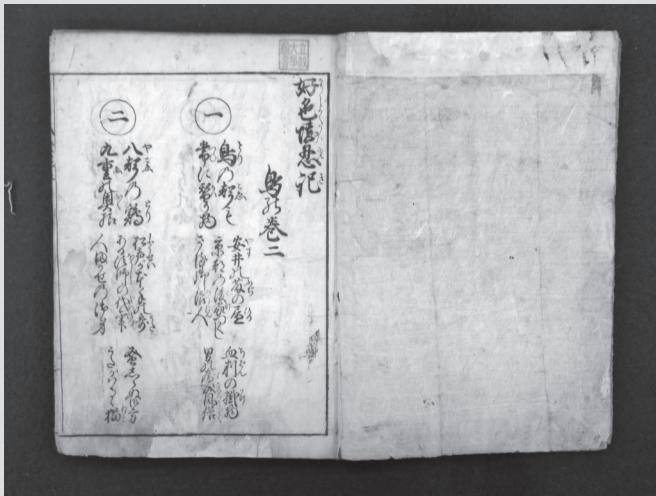
『浮世花鳥風月』巻一之二



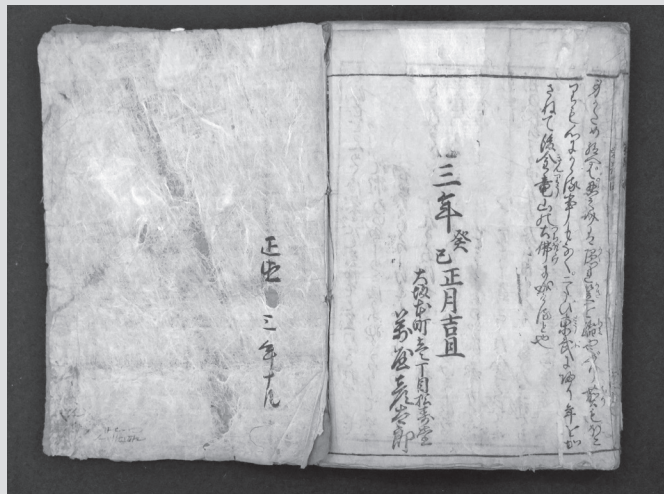
『浮世花鳥風月』巻一之二 挿絵



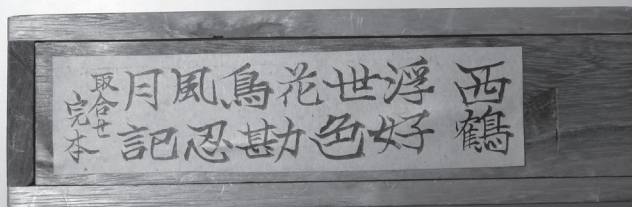
『好色堪忍記』表紙  
(立教大学図書館蔵)



『好色堪忍記』巻二 目次



『好色堪忍記』巻四 刊記



『浮世花鳥風月』『好色堪忍記』帙

## 編集後記

旧江戸川乱歩邸の二〇一七年一月から十二月までの来館者数は、七二六四名を数えました。多くの方々に親しまれてきた乱歩邸も、徐々に老朽化が目立ち始めており、大規模修繕も視野に入れております。

その一環として、母屋修繕後、新たに展示室を開設いたします。乱歩はもちろんのこと、探偵小説や大衆文化にスポットを当てた展示を企画しております。どうぞお

楽しみに。

また、乱歩の随筆「猫町」の初出掲載雑誌、『小説の泉』（昭和二十三年（一九四八）年九月）を御寄贈頂き、立教大学図書館に収めることができました。御礼申し上げます。他館ではほとんど所蔵されていない資料です。内容や文章の異同はほとんどありませんが、「猫町」のタイトルにふさわしく、茂田井武たいせいの挿絵で、ダンスを踊る猫、理髪店の猫などが素朴なタッチで描かれています。乱歩邸の資料を含め、ご活用下さい。

立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター

センター通信 第十二号

二〇一八年三月三十日 発行

編集・発行 立教大学江戸川乱歩記念

大衆文化研究センター

〒一七一八五〇一

東京都豊島区西池袋三―三四―一

電話番号 ○三―三九八五―四六四一

(FAX兼)

ranpo@rikkyo.ac.jp

公開日 水曜・金曜（祝日は除く）

（十時三十分～十六時）